

ある私立大学教授のひとりごと



芝浦工業大学
正留 隆

私が勤務する芝浦工業大学(SIT)は私立大学であるので、生き残りをかけて改革を行なっている。スーパーグローバル大学創生支援事業にも私立大学理工系では唯一選ばれており、その目標は学生全員が卒業までに TOEIC スコア 550 以上を取り、海外留学するということである。そのため、研究室内では、TOEIC 単語集の勉強会を毎日やる取り組みも要求されている。2027 年にアジア工科系大学のトップ 10 に入るという目標を設定されており、研究力の強化のため、大学院進学者を現在の 30 % から 60 % に増やす試みが行われている。この目標達成のため、TOEIC スコア 550 以上を有する学生の大学院入試合格者には奨学金を年間 30 万円授与することも昨年度から始まっている。また、大学院生一人当たりの予算は昨年度の 12 万円から 14 万円に増額されている。この政策のため、前年度より順調に大学院生数が全学で 100 名の増加となっている。しかし、人気のある研究室では一人の教員が学部生を含め 30 名以上の学生を指導しなければならない、研究室の狭隘化のみならず、教育負担が以前にも増して非常に多くなっている。また、大学院生の予算が増えた反面、

学部生の予算は前年度に比べて 10 % 減となっており、学部生の学生実験などに悪影響が出ている。今年度の応用化学科 1 年生入学生が定員 105 名に対して 128 名となっており、来年度の 2 年生の分析化学実験の実験室のキャパシティを 20 人程度超えており、どのように分析化学実験を運営していくべきか頭を抱えている。

J. FIA の編集会議が終わった後の懇親会で、国立大学法人の先生方から、法人化されて 13 年になる国立大学の予算が悲惨な状態になっているとのことを聞くと、国立大学法人に比べて、SIT は私立大学なので、教育負担は非常に大きい、予算の面ではまだ恵まれているのかなと思う。

さて、SIT は東京・豊洲にある。築地市場の移転予定地の豊洲市場が近くにある。豊洲市場の土地は揮発性有機化合物やヒ素などに汚染されており、その環境モニタリングにはかなりの予算と時間がかかるとの報道がなされている。このような環境モニタリングが FIA 法を用いて、より安価で短時間にできないものかと考えている。FIA 研究懇談会の諸先生方の取り組みを期待しております。